

# 出向の「打診」はキツパリ拒否しよう



87. 8. 24  
No. 2636

国鉄千葉動力車労働組合  
千葉市要町二一八（動力車会館）  
（鉄電）二五三五・六（公衆）〇四七二（22）七二〇七

## 「出向」首切り攻撃のために暗躍する当局と対決し、反撃しよう！

すべての組合員のみならず、全国で吹き荒れている「出向」首切りの嵐がいよいよ千葉においても開始された。千葉運転区の当直総括の反動助役某が先頭となって組合員B君に「出向の打診」をしていくことが発覚したのだ。その後、当該支部がB君にその事実経過を確認、直ちに千葉運転区区長まで「出向は拒否する」とB君は通告し、区長は「わかりました」と了承した。このことは明らかにか千葉運行部当局の首切り「出向」攻撃の「宣戦布告」であり、全面的対決の始まりである。全組合員は、当局のこうした「出向への打診」があつた場合、絶対に「拒否」すると同時に、出向に関する情報はどんなに小さくとも関係支部に連絡することを訴える。

### 営業関係では運転主任に「打診」

千葉運行部当局は「夏季輸送終了、広域採用百十四名現場配属」を契機に、本格的な出向攻撃に打ってでてきている。

すでに、駅関係では、国労を脱退し、鉄労や社員労（千葉技能人協議会）に逃げて、「出されても文句の言えない」運転主任などに「出向肩たたき」が来てパニック状態になっているそうである。

JR当局と「出向協定」をとりかわしている鉄道労連（動労、鉄労、社員労、鉄輪労など）や鉄産総連では、出向の対象となった本人が「拒否」しようにも「拒否」はできなくなってしまう。仮に、その本人が「拒否」したとしても、そういう組合では守ってくれないことはハッキリしている。

### 出向攻撃は壁にぶちあたっている

出向の弱点は、なによりも出向先の会社があるということである。出向受け入れ企業が「動労千葉の組合員はいらない」と断わってくれば、それまでである。

この間、国労中央の無方針にもかかわらず国労の下部組合員は、本社前座りこみ行動や抗議闘争を積み重ねるなかで、受け入れ企業からの悲鳴があまり出向が減ってきている。

国労東京では、この間のたたかいで第三次発令は三名、第四次発令は〇というところまで当局をおいやっている。

### 出向は他人の問題ではない

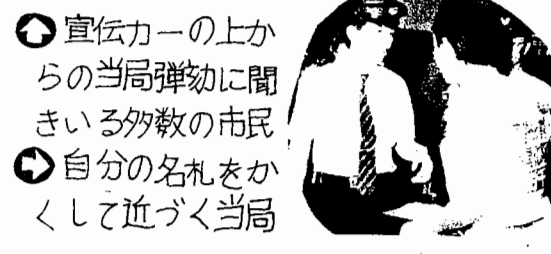
出向とのたたかいは本人が拒否することから第一歩が始まる。グラグラしていれば、反動助役どもは、そこにつけいって「就業規則にあるから断われない」「業務命令が出て断わったらクビだ」とか言ってホコ先を向けてくるにちがいない。

スト権一票投票をかわきりに、全力でたたかう！  
八月二十九日、千葉運行部弾劾の集会・デモに総力で集まり、反撃のたたかいを大成功させようではないか。

### 青年部第二波行動に起つ

八月十九日、青年部40名が強制出向粉砕への怒りの第二波行動として、千葉駅頭街宣に起つた。駅の真正面に乗りつけた宣伝カーからはJR当局を弾劾するアジテーションが響き、ビラが市民の手に手わたされた。

当局や鉄道警察隊も、すぎあらばと弾圧を狙う。しかし、驚いたことに当局どもは一人も名札を着けていないのだ。



↑ 宣伝カーの上からの当局弾劾に聞きいる夕教の市民  
↓ 自分の名札をかきつけて近づくと当局

労働者を、名札ひとつで差別し、賃金カットまでおこなうのに、いったい何ごとだ！ 怒りが爆発した。追及するも「今は名札の論議をするときではない」などと、訳のわからぬ言いわけをしてオロオロするばかりである。  
われわれは、断固宣戦を貫徹し、怒りのシュプレヒコールをたたきつけ、行動を終了した。